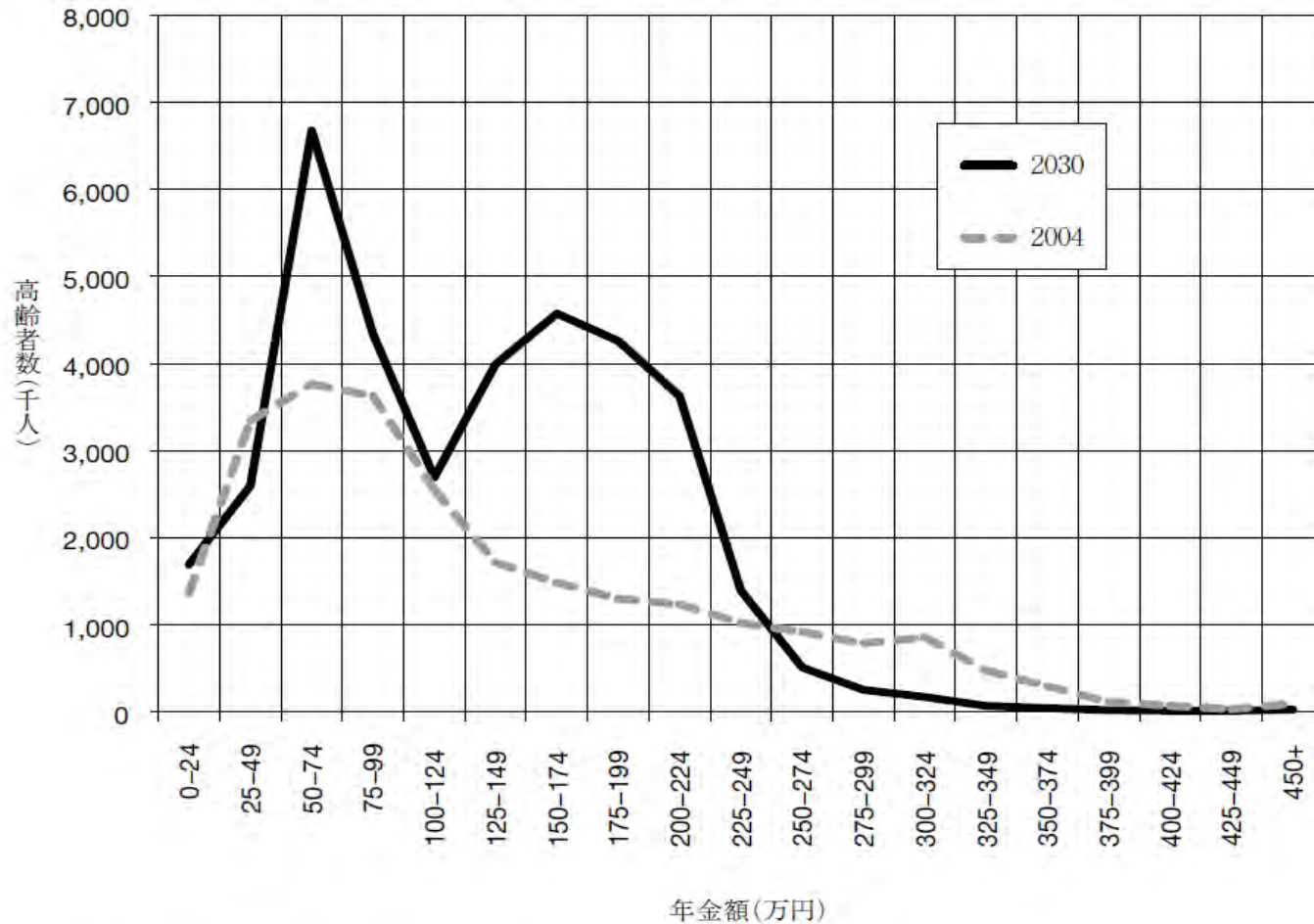


# 年金制度をどうするか？

- 年金のトリレンマ：1) 財政の持続可能性、2) 最低生活の維持（生保との関係）、3) 世代間の公平の改善
- マクロ経済スライドでかろうじて現時点での持続可能性は確保
- 基礎年金の大幅な低下により基礎的所得保障機能の低下
- 保険料固定方式のまま年金制度を維持するためには、複数の政策組み合わせ（就労期間の長期化と私的年金の拡充で低下分を補う）。

# 年金分布のシミュレーション

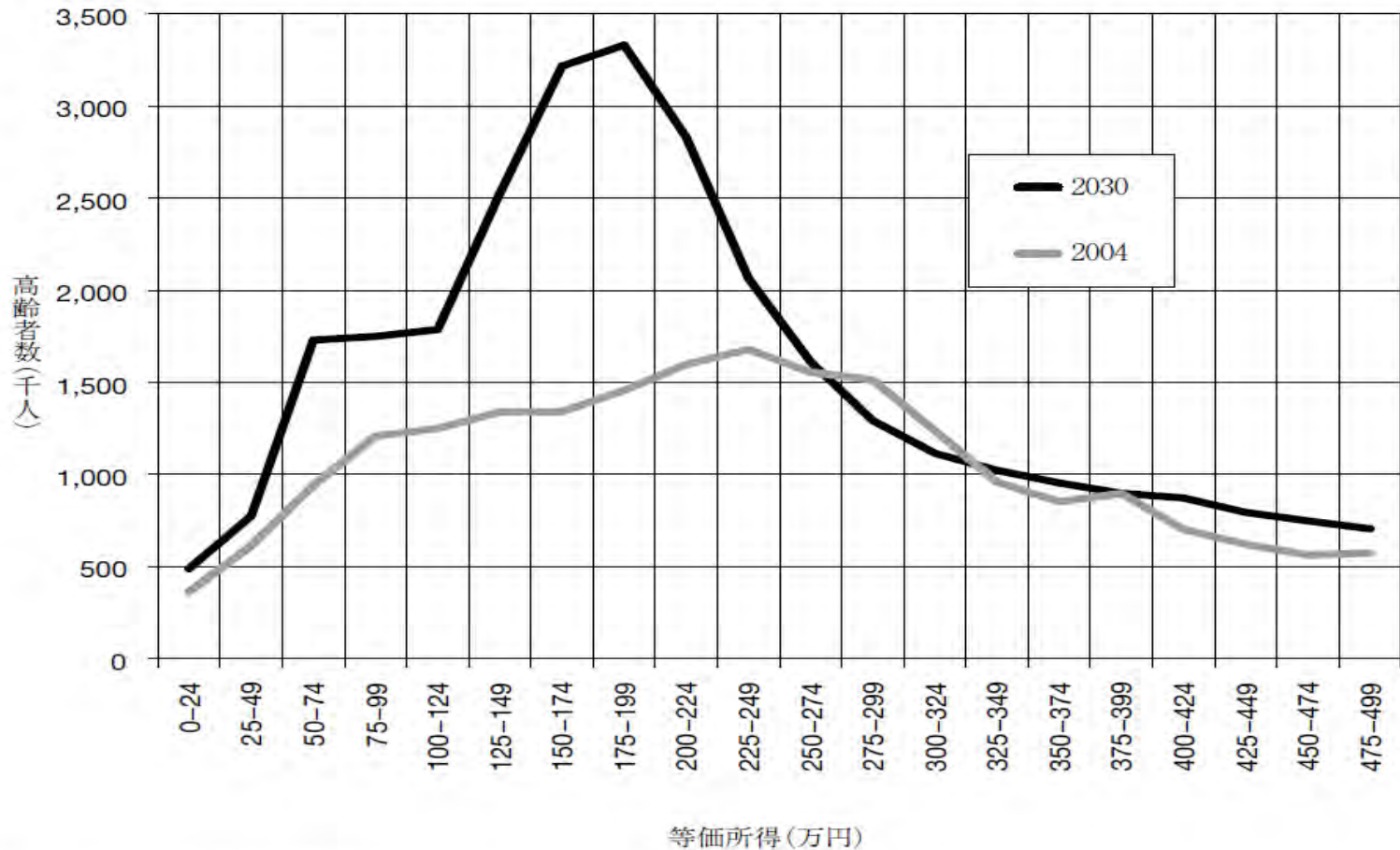


注) INAHSIMにより, 筆者推計。

図3 2004年と2030年における年金額の分布の比較

出典: 稲垣(2010)

# 等価可処分所得のシミュレーション



注) INAHSIMにより、筆者推計。

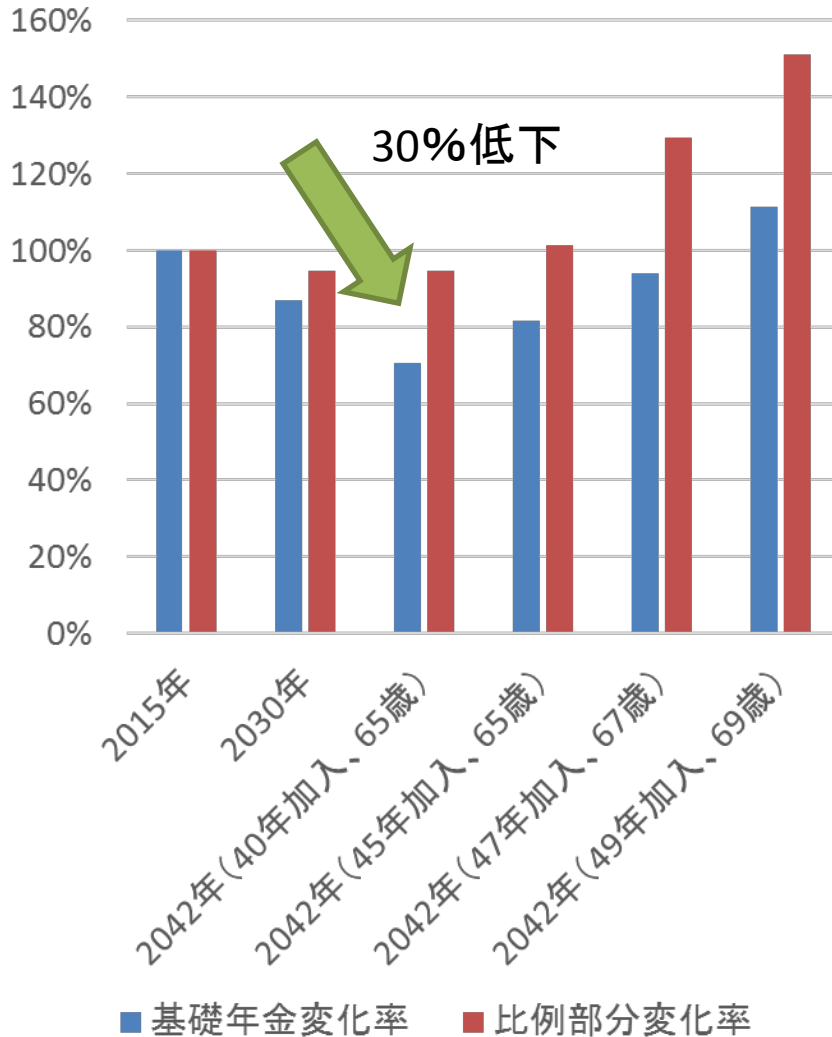
図5 2004年と2030年における等価所得の分布の比較

## 年金財政と支給開始年齢

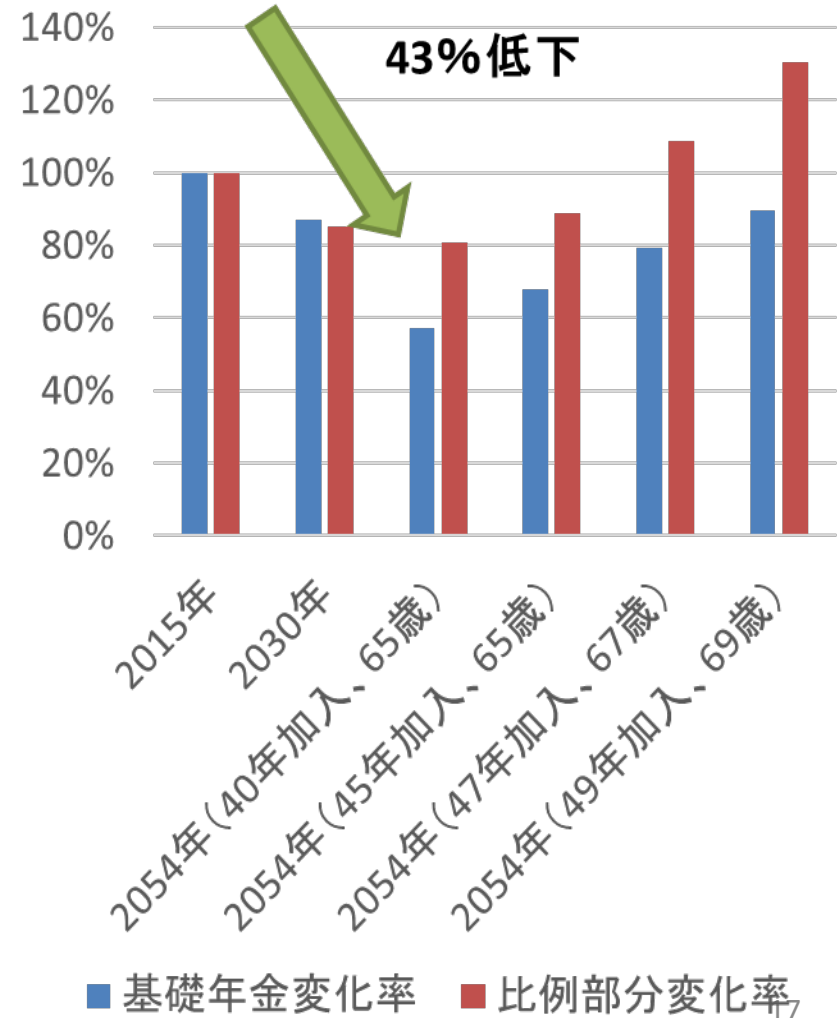
- 1: 2014年度の財政検証で、8ケースのうち、労働力率上昇、TFP上昇、運用好転ケースの5ケース(代表Eケース)では50%代替率維持と持続可能性は確認された。他方、悲観的なケース(Hケース)では代替率維持、持続可能ではないことも確認された。
- 2: 持続可能ケースでも厚生年金は20%、基礎年金は30%の対賃金での給付水準の低下が予測される。
- 3: マクロ経済スライドを継続的に適用できれば、さらなる高齢化、継続的な寿命の伸長があっても、「年金財政の持続可能性」は確保できるが、年金水準は継続的に低下を続ける。
- 4: 年金水準(特に基礎年金)の低下は、貧困高齢者、高齢生活保護受給者の増加につながる。
- 5: 支給開始年齢の引き上げと加入期間の延長は、年金給付水準の維持・改善のために必要である。

# 現行水準からの変化率と選択肢（Hケースの場合、基礎年金の低下を回復できない）

## 基礎年金と比例部分の変化率（Eケース）



## 基礎年金と比例部分の変化率（Hケース）



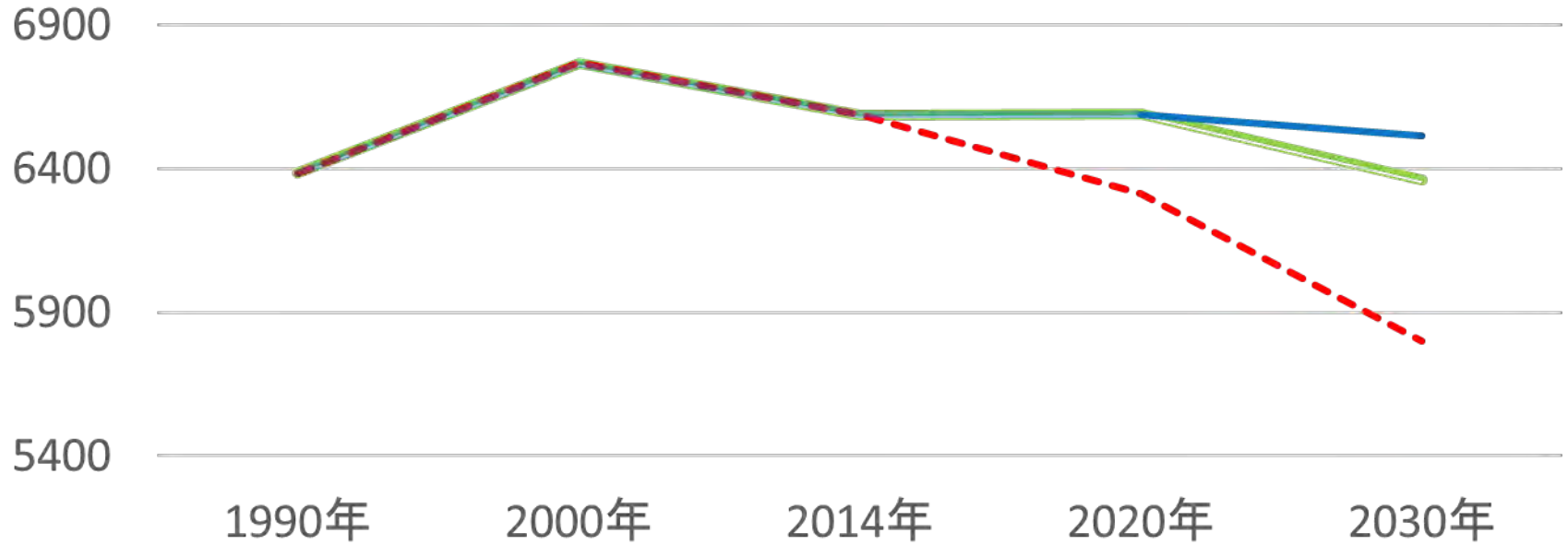
# 年金支給開始年齢の引き上げ

- 1: 年金支給開始年齢65歳への到達は、2025年(男性)、2030年(女性)で決まっているが、それ以上の引き上げは「封印」されている。
- 2: 国民年金は、60-64歳の期間、加入期間でも受給期間でもない空白期間がある。(オプションⅢ)
- 3: 加入期間の長期化、支給開始年齢の先送り(繰り下げ効果)が給付水準に与える影響を整理。(45年加入、47年加入+67歳、49年加入+69歳)
- 4: 私的年金加入推進を組み合わせる(強制加入、税制上の優遇、低所得者への補助金)
- 5: 2030年に「年金支給開始年齢70歳に引き上げ、同時に労働力率が上昇した」場合、150万人の労働供給が追加され、マクロ経済スライド期間を短縮させることができる。(考慮されていない)

# 2030年に年金支給開始引き上げケース 150万人労働力追加

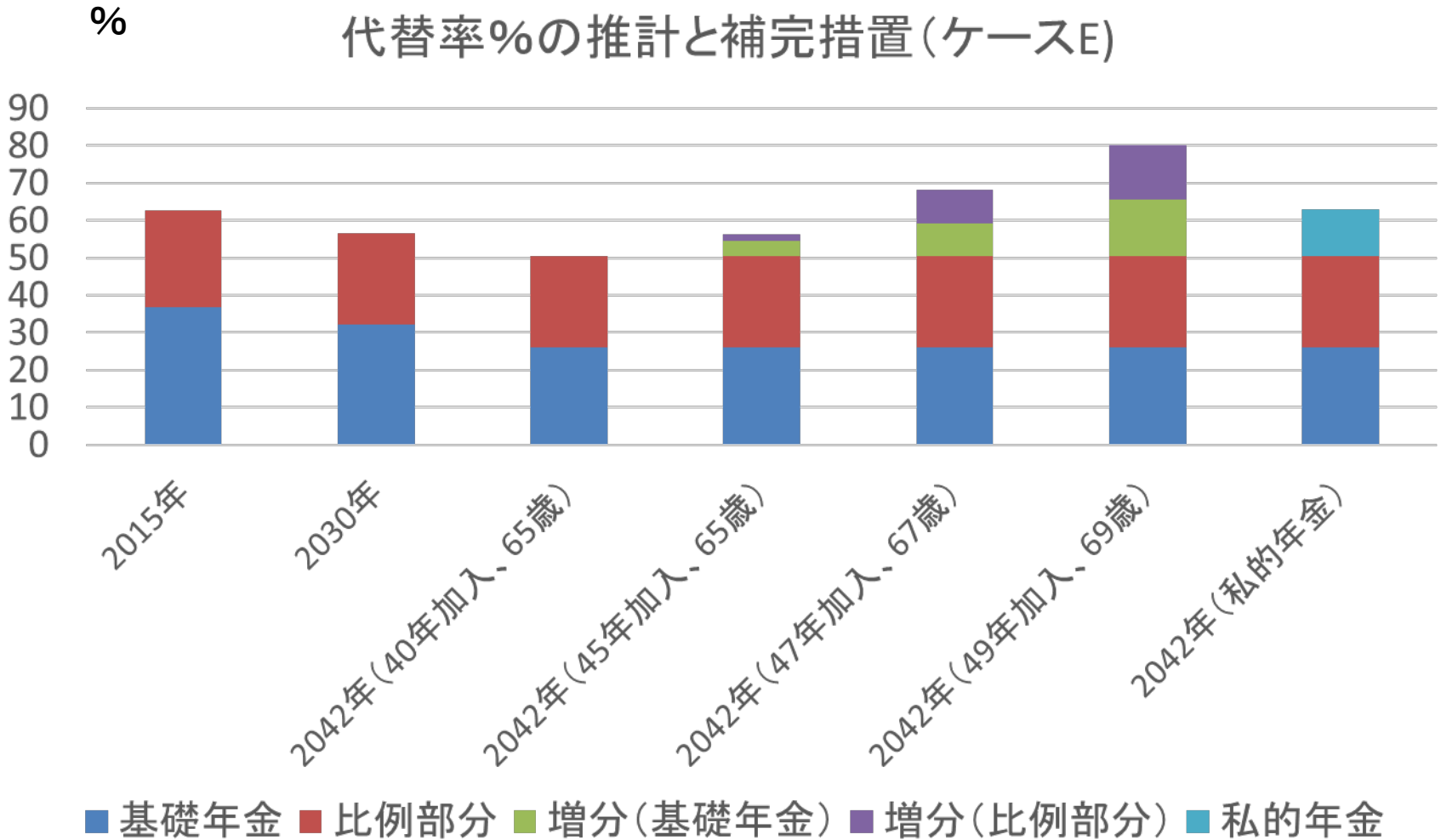
万人

労働力人口



- 加速するケース
- - - 加速しないケース
- 加速・年金支給開始年齢引き上げケース

# 支給開始年齢・加入期間の効果、私的年金の 予測1

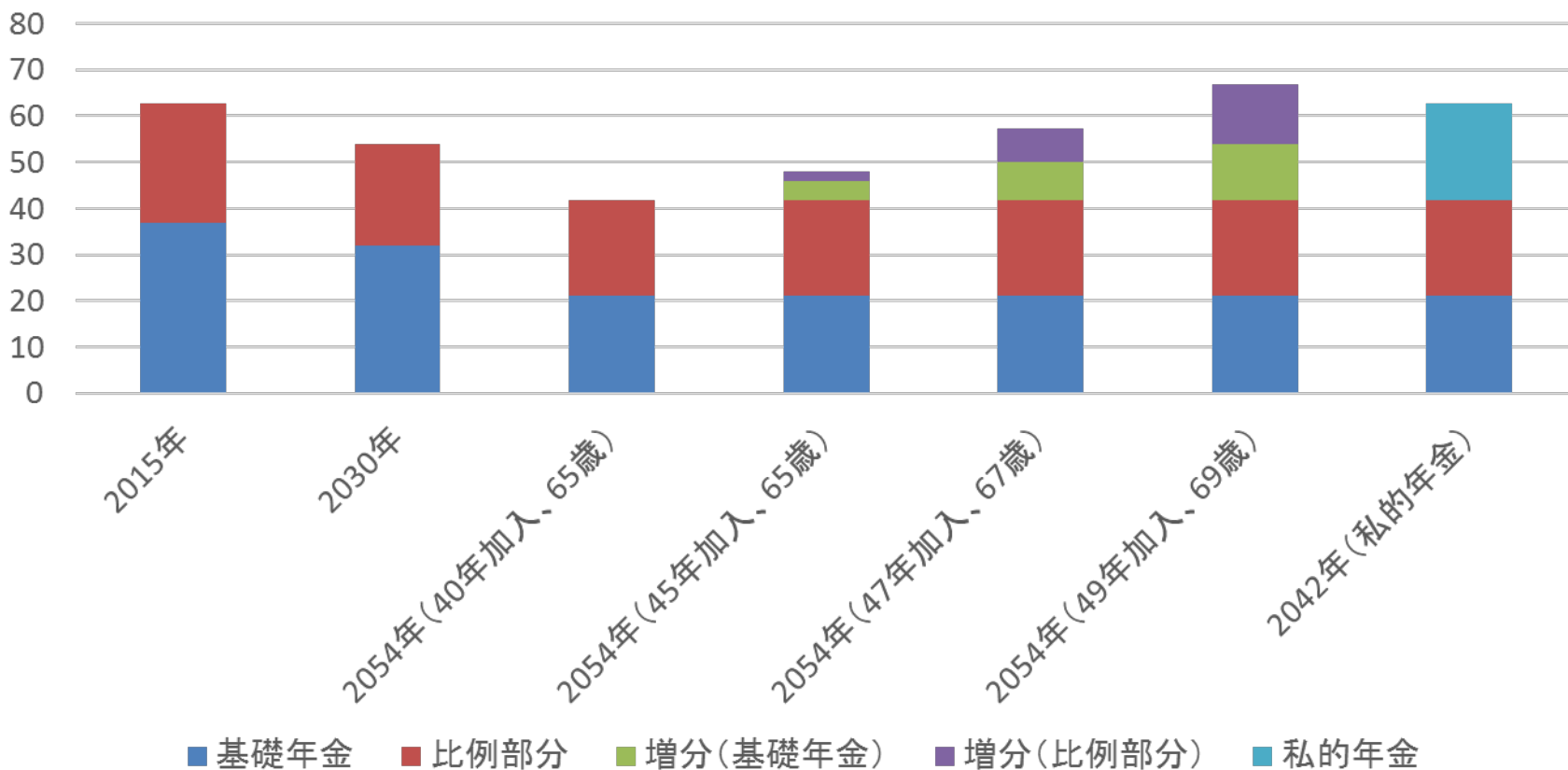




# 支給開始年齢・加入期間の効果、私的年金の 予測2

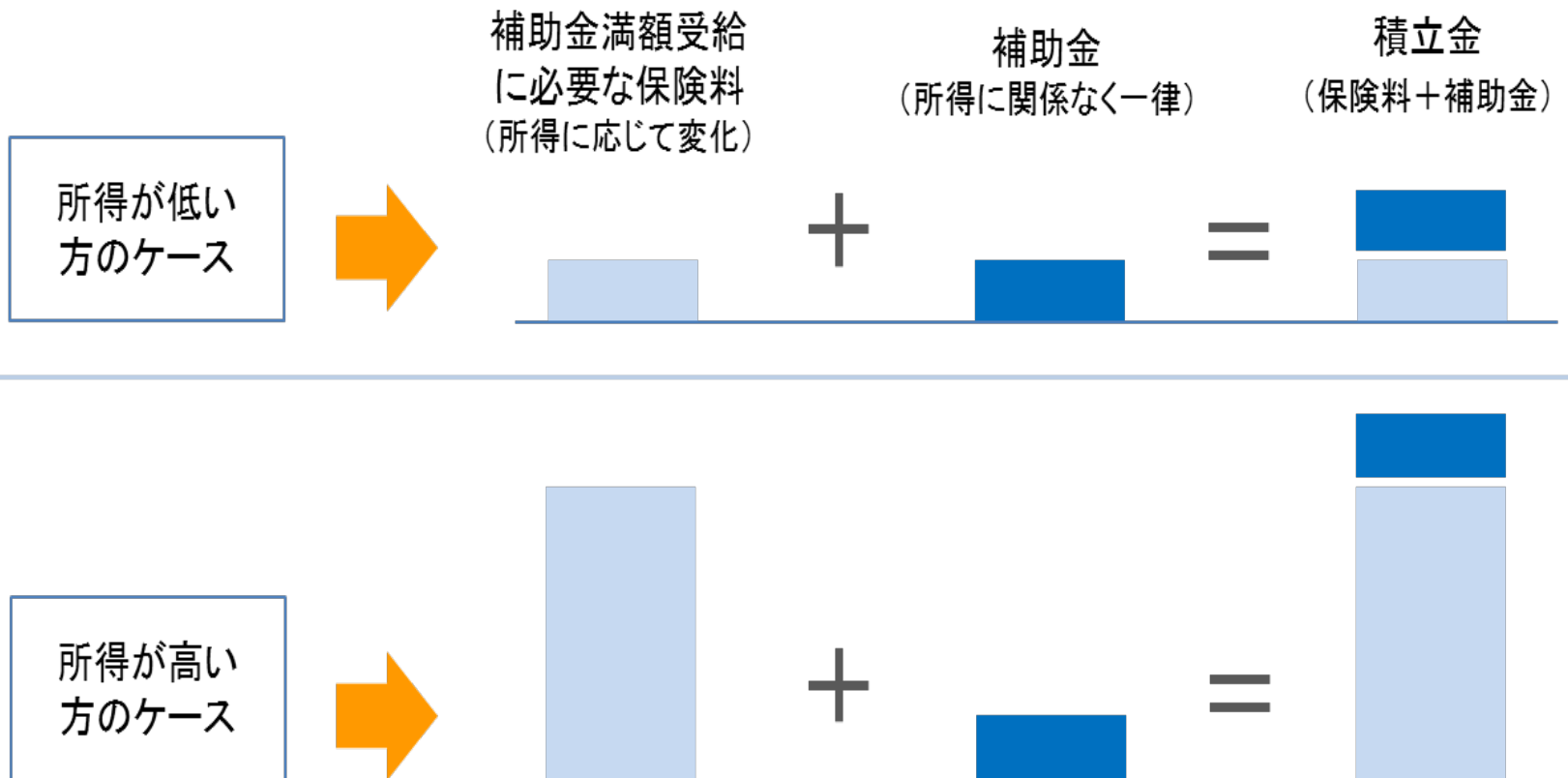
%

代替率の推計と補完措置(Hケース)



# 私的年金への加入補助金

## 保険料と補助金の関係(イメージ)



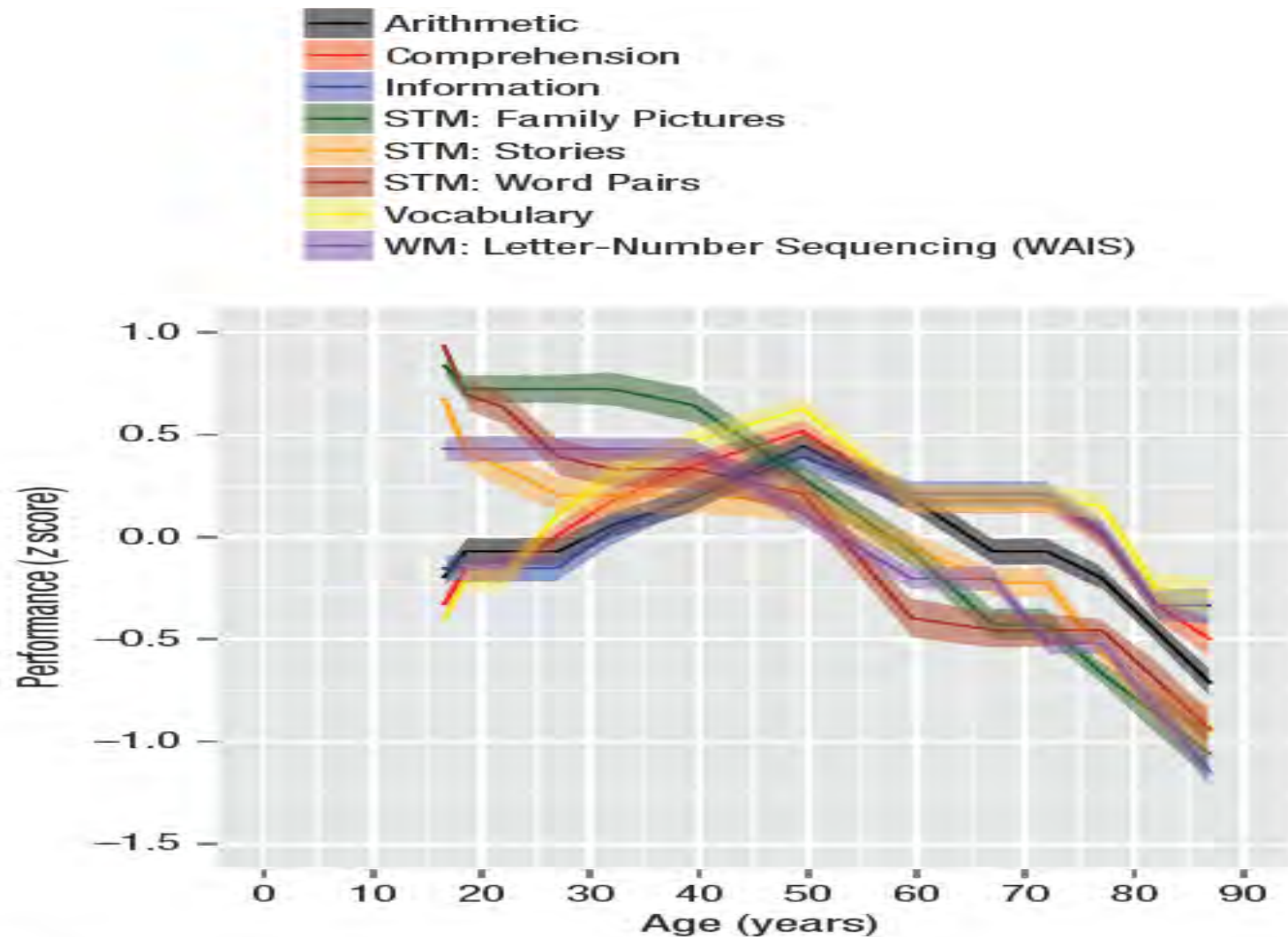
# 1: 人的資本

- 69歳までの雇用(年金支給開始年齢)と複役社会
  - 加齢と共に人の知能は低下しているのか？
- 加齢とともに体力は低下する。しかし、認知能力の低下は大きくない。流動性知能は低下するが、結晶性知能は低下しない。
- 流動性知能: 想像力、抽象的な思考能力。
- 結晶性知能: 経験に基づく判断(経験知)、言語、社会行動能力
- 両者のバランスが加齢とともに変化していく。40歳頃が転換期
- 性格(ビッグ5)が重要で、安定している。

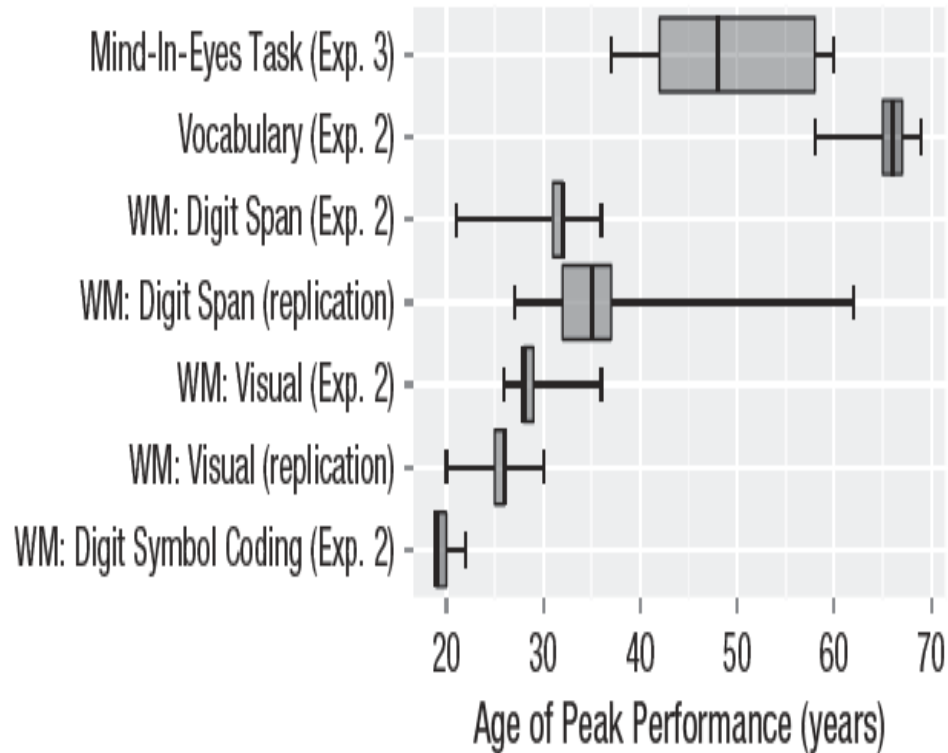
# 加齢と共に知的能力が低下するというよりも「バランス」が変化する。

- 分析対象：20歳から74歳までの3375人
- 語彙力テスト等（結晶性知能）
- 論理的推論テスト等（流動性知能）
- 若い被験者は流動性知能、高齢の被験者は結晶性知能で高い得点。

Hartshorne, J. K., & Germine, L. T. (2015), When Does Cognitive Functioning Peak? The Asynchronous Rise and Fall of Different Cognitive Abilities Across the Life Span,  
Psychological Science. doi: 10.1177/0956797614567339

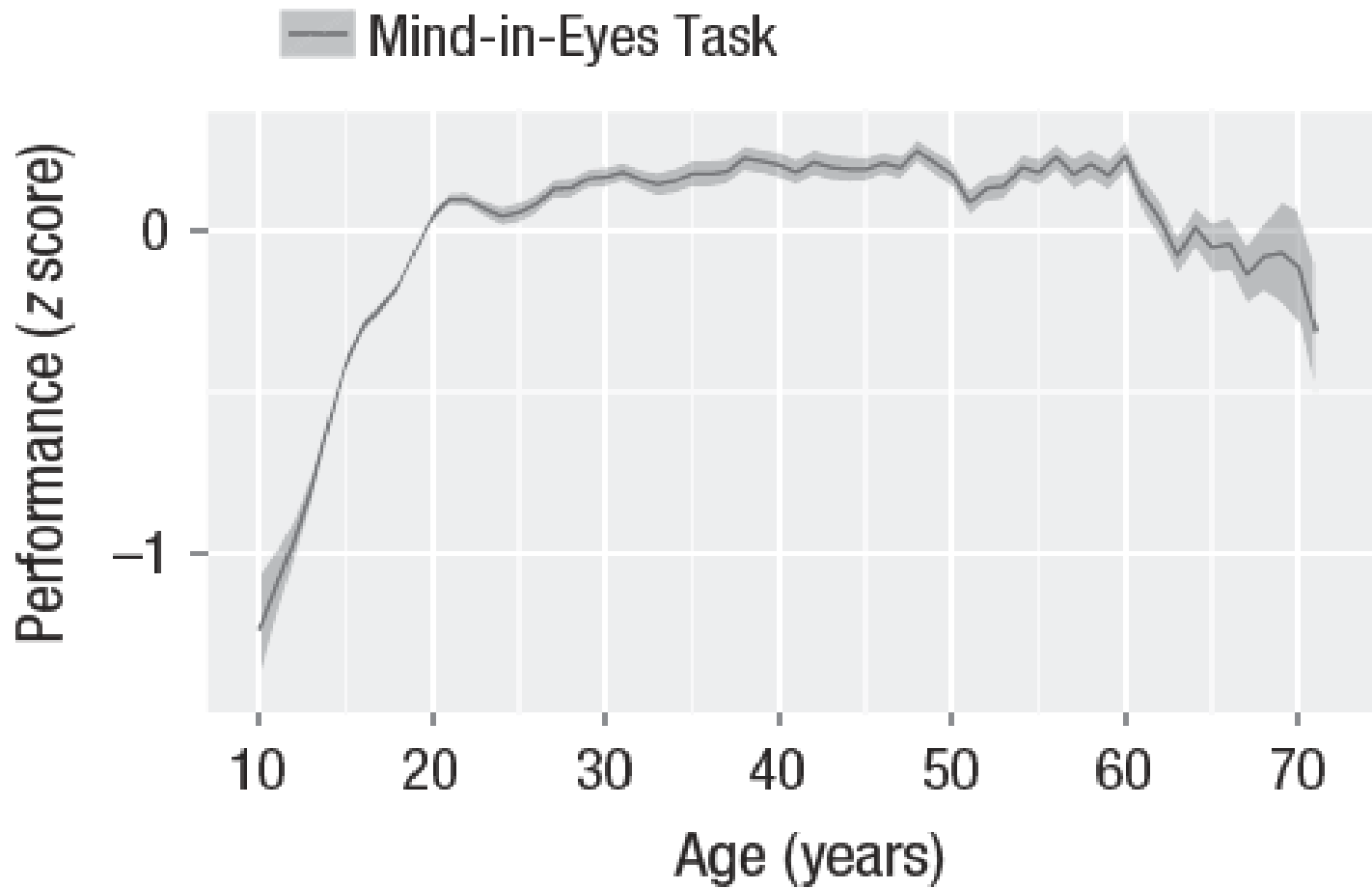


**Fig. 2.** Results of Experiment 1: mean  $z$ -scored performance as a function of participants' age and task in Experiment 1. Shaded bands represent standard errors. STM = short-term memory, WM = working memory, WAIS = third edition of the Wechsler Adult Intelligence Scale (Wechsler, 1997a).



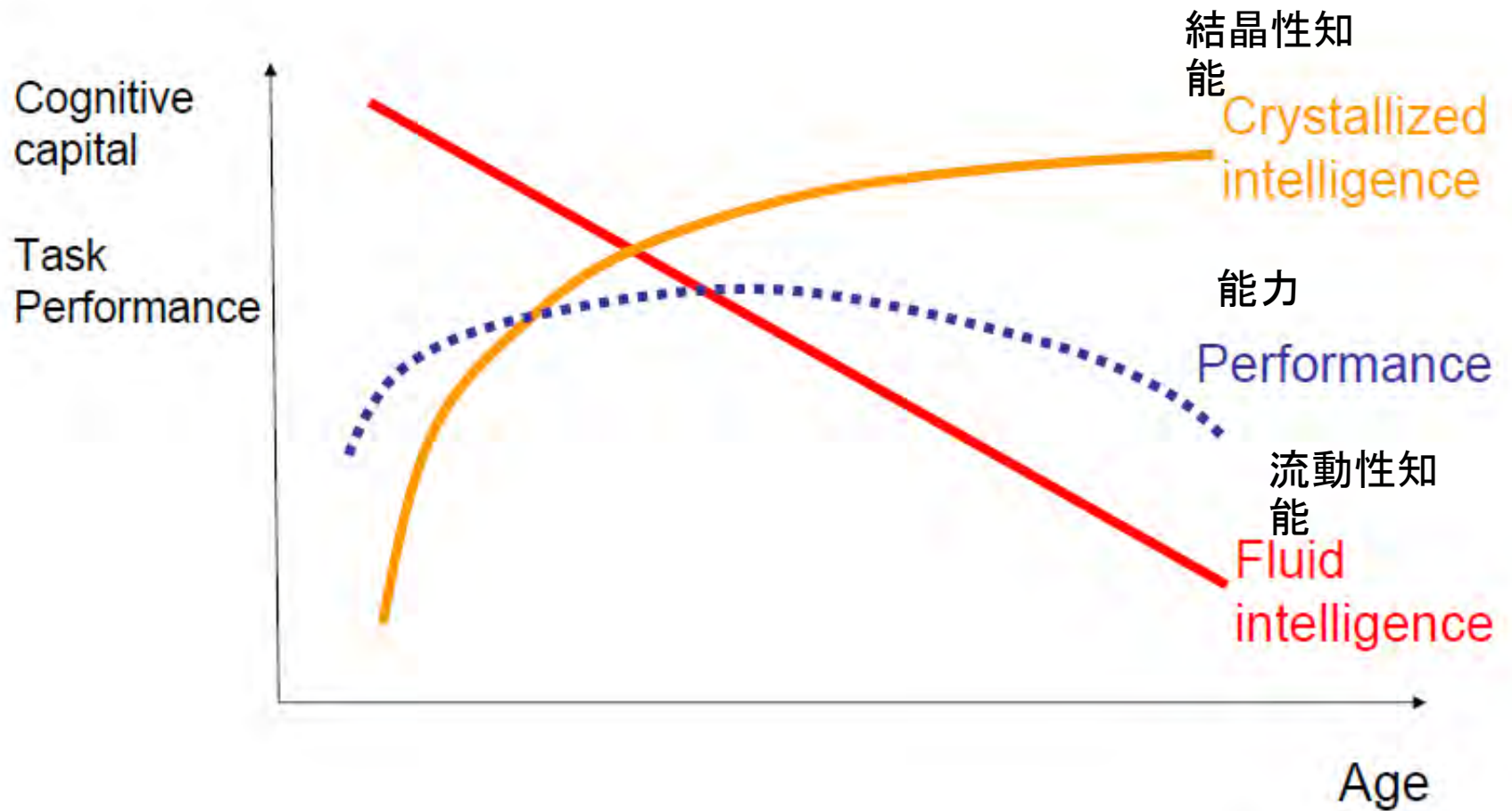
**Fig. 3.** Results of Experiments 2 (a, c) and 3 (b, c). The graph in (a) shows mean  $z$ -scored performance as a function of participants' age and task in Experiment 2. The graph in (b) shows mean  $z$ -scored performance on the mind-in-eyes task as a function of age in Experiment 3. For these two graphs, shaded bands represent standard errors. Box-and-whisker plots are shown in (c) for bootstrapped age of peak performance on selected tasks in Experiments 2 and 3, plus replications. For each task, the median (interior line), interquartile range (left and right edges of boxes), and 95% confidence interval (whiskers) are shown. WM = working memory.

Hartshorne, J. K., & Germine, L. T. (2015)



Hartshorne, J. K., & Germine, L. T. (2015)

加齢による知能はどのように変化するのか  
それが経済活動に与える影響はどのようなものか





# 40歳以上の労働者が全体の2/3(67%)を越える。 年金支給69歳、経済加速ケース

労働者の性別・年齢構成

